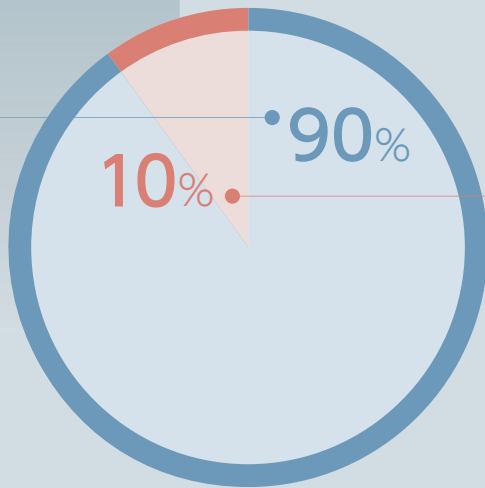
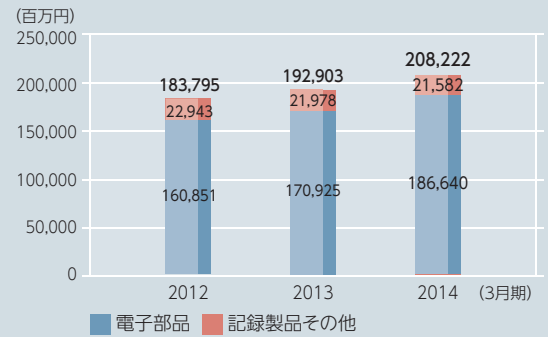


# At a Glance

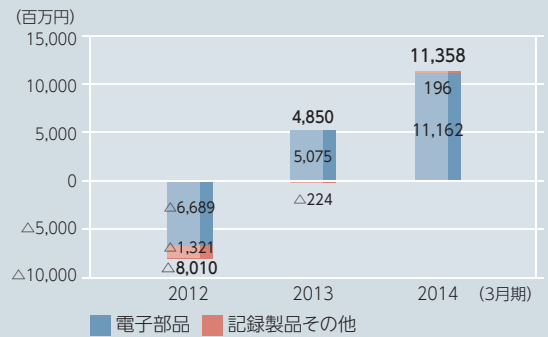
事業セグメント別売上高構成比  
2014年3月期



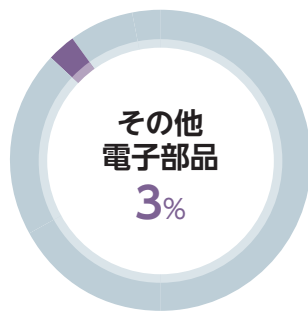
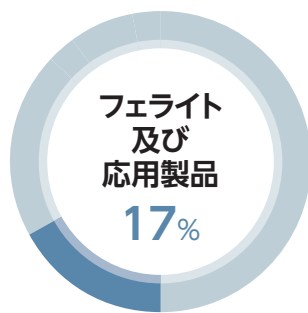
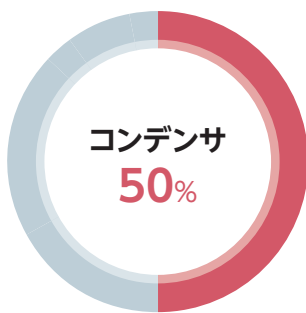
事業セグメント別売上高の推移



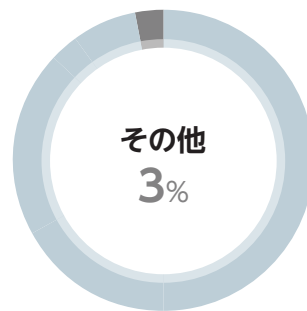
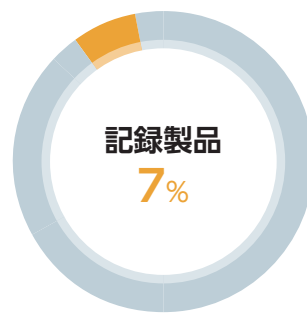
事業セグメント別営業利益の推移



## ● 電子部品



## ● 記録製品その他



## 事業の概要

創業より開発・生産に取り組み、今も連結売上高の約半分を占めるコンデンサ事業は、太陽誘電グループの主力事業です。さまざまな電子機器に向けて、スーパーハイエンド商品をはじめとする高品質商品を展開しています。

### 2014年3月期の業績

すべての機器向けの売上高が前期比で増加したことにより、売上高は前期比16.0%増の1,042億33百万円となりました。

### 2014年3月期の主な取り組み

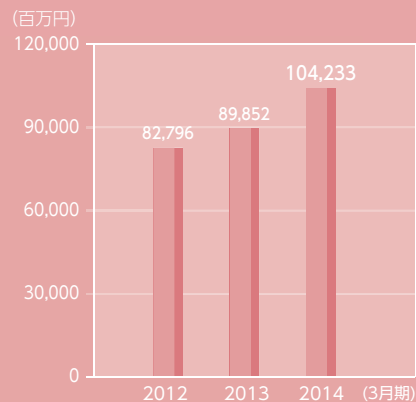
積層セラミックコンデンサについて、引き続き誘電体の材料技術、薄膜・大容量化技術、超小型品生産技術などの高度化に取り組みました。また、1,000層を超える多積層技術を開発することで、電解コンデンサ市場を置換する商品として3225サイズ(3.2mm×2.5mm)で静電容量330 $\mu$ Fの量産化に成功しました。さらに、それらの技術を応用し、0402サイズ(0.4mm×0.2mm)0.22 $\mu$ F、0603サイズ(0.6mm×0.3mm)2.2 $\mu$ F、1005サイズ(1.0mm×0.5mm)22 $\mu$ F、1608サイズ(1.6mm×0.8mm)47 $\mu$ Fの量産を開始しました。加えて、超小型品である0201サイズ(0.25mm×0.125mm)の量産準備や、0603サイズ薄さ0.15mm、1005サイズ薄さ0.11mmといった超低背品の量産を開始しました。

### 今後の取り組み

スマートフォンやタブレット端末といった成長機器に向け、積層セラミックコンデンサの超小型品、超低背品や各サイズにおける最先端商品であるスーパーハイエンド商品を強化し、需要拡大に合わせた体制を整備します。

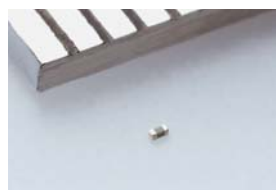
また、自動車電装や産業機器、医療・ヘルスケア、環境・エネルギーといった注力すべき市場に対しては、高品質・高信頼の商品ラインアップを強化します。100 $\mu$ F以上の大容量ゾーンにおいては、電解コンデンサ市場へ積極展開することで、積層セラミックコンデンサ市場の拡大を促進します。一方、生産体制においては引き続き、国内で生産していたハイエンド商品の海外展開を加速して、海外拠点の最大活用を図るとともに、国内外すべての生産拠点において高効率生産に努めます。

### 売上高推移

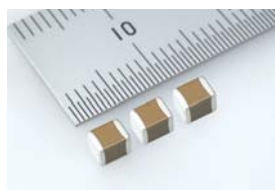


### 主な商品

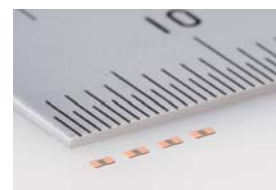
#### 積層セラミックコンデンサ



超小型積層セラミックコンデンサ  
0201サイズ(0.25mm×0.125mm)



小型大容量積層セラミックコンデンサ  
3225サイズ(3.2mm×2.5mm)  
330 $\mu$ F



超低背積層セラミックコンデンサ  
1005サイズ(1.0mm×0.5mm)  
薄さ0.11mm

### 事業の概要

さまざまな機器の電源回路、高周波回路に向けて、フェライト系材料を使用した商品や、金属系磁性材料を使用した金属系パワーインダクタ[MCOIL™ (エムコイル)]を中心に展開しています。

#### 2014年3月期の業績

テレビなどの民生機器向けの売上高が前期に比べ減少したものの、タブレット端末などの情報機器向け、スマートフォンなどの通信機器向け、自動車・産業機器向けの売上高が前期に比べて増加したことにより、売上高は前期比22.0%増の347億45百万円となりました。

#### 2014年3月期の主な取り組み

積層チップインダクタについて、市場拡大が続くスマートフォンやタブレット端末に使用される金属系パワーインダクタ[MCOIL™]積層タイプのラインアップを強化し、2012サイズ(2.0mm×1.25mm)の量産準備に入りました。携帯機器向け高周波積層インダクタでは、0603サイズ(0.6mm×0.3mm)・0402サイズ(0.4mm×0.2mm)において、Q特性を向上した業界最先端レベルの商品を量産するなど、インダクタンス値の拡大を進めています。また、スマートフォンのノイズ対策部品として、0605サイズ(0.65mm×0.55mm)の小型モードチョークコイルを商品化しました。

巻線インダクタについては、「MCOIL™」巻線タイプについて、1μH以下の低インダクタンス品、10μHまでの高インダクタンス品を拡充しました。さらに、1608サイズ(1.6mm×0.8mm)・2012サイズを商品化し、14形状をラインアップしています。

#### 今後の取り組み

これまで以上にお客様のニーズに沿ったスーパーハイエンド商品の展開を加速します。特にパワーインダクタに関しては、「MCOIL™」のラインアップを強化し、戦略的な市場投入と生産能力の拡大に取り組みます。また、高周波積層High-Qチップインダクタ・超小型積層チップインダクタについて、0402サイズのラインアップ拡充を図ります。

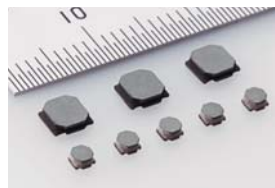
生産体制についてはコンデンサと同様に、海外拠点の最大活用と高効率生産に努めます。

#### 売上高推移

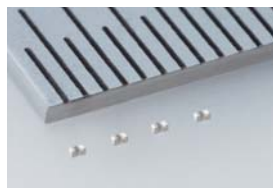


#### 主な商品

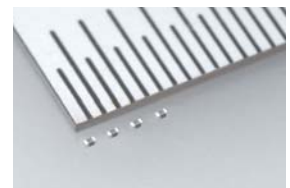
金属系パワーインダクタ[MCOIL™(エムコイル)]、巻線インダクタ、積層チップインダクタなどの各種インダクタ商品



金属系パワーインダクタ [MCOIL™(エムコイル)]



高周波積層High-Qチップインダクタ



超小型積層チップインダクタ

## 営業概況

### 電子部品 複合デバイス

#### 事業の概要

当社製で信頼性の高い電子部品を搭載し、さまざまな市場に対応した通信デバイスや電源モジュールなどを展開しています。

#### 2014年3月期の業績

モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)と電源モジュールの売上が前期比で減少したことにより、売上高は前期比11.4%減の423億75百万円となりました。

#### 2014年3月期の主な取り組み

スマートフォンのキーデバイスであるモバイル通信用デバイスについては、SAW技術をコアとした商品の開発を行いました。また、近年普及し始めた通信方式であるLTEに対応する小型・低消費電力のフィルタデバイスや、整合回路を付加したフロントエンドモジュールなどを開発し、提案を行いました。さらに、より高機能なデバイスを目指してFBAR技術を駆使した商品の開発にも注力しました。

複合機能モジュールについては、特に独自開発の部品内蔵配線板「EOMIN™(イオミン)」が、スマートフォン用カメラモジュールの小型薄型化に大きく貢献しました。

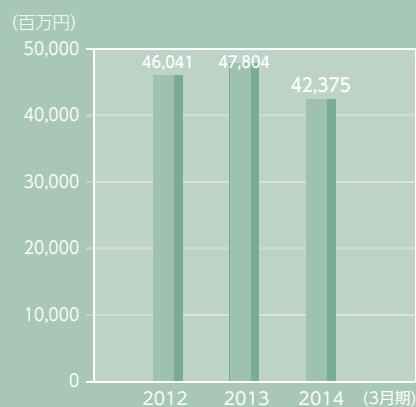
無線通信モジュールについては、Bluetooth®、無線LANなどの異なる通信規格を同一モジュールで実現するコンビネーションモジュールの開発・商品化に特に注力しました。

#### 今後の取り組み

SAW/FBAR技術を核とした高周波事業の展開、当社グループオリジナル技術から生まれた部品内蔵配線板「EOMIN™」を用いたスーパーハイエンド商品の積極的な市場投入、ならびにエネルギー市場に向けた回生システム等の電源事業の強化を図ります。

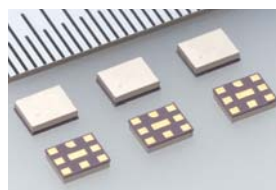
また、モバイル通信用デバイスは、次世代通信方式のメインであるLTEの普及に伴う搭載点数の増加に対応した生産体制の構築に努めます。

#### 売上高推移

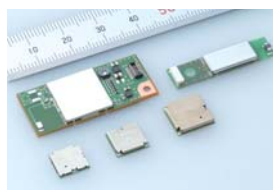


#### 主な商品

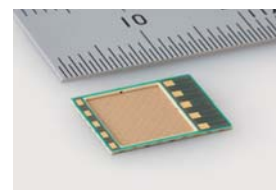
モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)、電源モジュール、高周波モジュール、部品内蔵配線板「EOMIN™(イオミン)」



モバイル通信用デバイス  
(SAW/FBAR)



無線モジュール



部品内蔵配線板  
「EOMIN™(イオミン)」

### 事業の概要

さまざまな電子機器のピーク電流アシストやバックアップ用電源として、ポリアセンキャパシタ、リチウムイオンキャパシタを展開しています。

#### 2014年3月期の業績

売上高は前期比10.6%増の52億84百万円となりました。

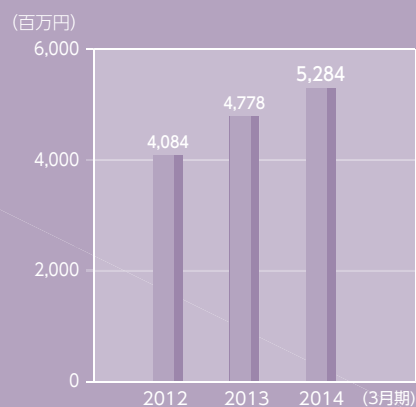
#### 2014年3月期の主な取り組み

産業機器など、高い信頼性が求められる市場に向けて、電気二重層キャパシタとリチウムイオン電池の特性を併せ持ったシリンダ型リチウムイオンキャパシタの生産を拡大しました。また、大型リチウムイオンキャパシタの提案活動を開始するとともに、シリンダ型ポリアセンキャパシタのマーケティングを進めました。

#### 今後の取り組み

先端技術分野での用途開発や、エネルギー分野への拡販を展開します。将来的に拡大が期待できるスマートメータやストレージサーバのバックアップ電源用途に向けた商品を強化するとともに、大型のリチウムイオンキャパシタでは、主に高信頼性市場に向けたマーケティング活動を継続していきます。

#### 売上高推移

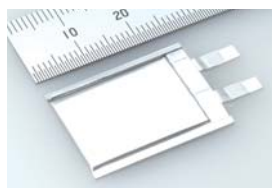


#### 主な商品

##### エネルギーデバイス



シリンダ型リチウムイオンキャパシタ

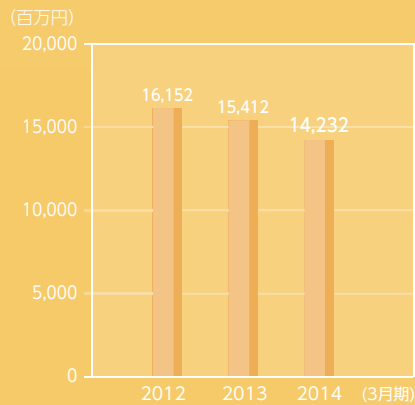


薄型ポリアセンキャパシタ

## 営業概況

### 記録製品その他 記録製品

#### 売上高推移



## 営業概況

### 記録製品その他 その他

#### 売上高推移



### 事業の概要

1988年に世界で初めてCD-Rの開発に成功して以来、CD-RやDVD-R、BD-Rの開発・生産に取り組んできました。現在はアーカイブ(長期保存)市場を主なターゲットとして取り組んでいます。

#### 2014年3月期の業績

売上高は前期比7.7%減の142億32百万円となりました。

#### 2014年3月期の主な取り組み

アーカイブ用途の光記録メディアの市場要求が高まってきていることを踏まえて、CD-R、DVD-R、BD-Rの各フォーマット、さらに次世代アーカイブ用高密度媒体で高品位商品の開発を進めました。

#### 今後の取り組み

安定的な収益を確保するため、引き続きビジネスモデルの転換を進めます。特にアーカイブ市場の開拓と創出に向けて、当社の強みである高品質な商品を活かしたシステムソリューションを提案していきます。

#### 主な商品

CD-R、DVD-R/DVD+R、BD-R



DVD-R、BD-R、CD-R

### 事業の概要

主に、子会社でのプリント基板の設計および実装事業です。

#### 2014年3月期の業績

売上高は前期比11.9%増の73億49百万円となりました。